

# 令和4年度 清瀬市立 清瀬第三中学校 学校評価表

<b>学校教育目標</b>	問尊重の精神を基盤とし、希望に満ちた社会をめざす健康で明るく、知性ある人間を育成する。1. 思いやりのある生徒・・思考力 2. 自主性のある生徒・・行動力 3. 協力する生徒・・人間力	<b>育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動</b>	1 教育活動全体で命の教育についての指導を実施するとともに、人権尊重を意識した教育活動を展開し、自尊感情や自己有用感を高めさせ、自他の命を大切にする態度を育てる。 2 生徒の主体性を意識した学校生活を向上させるための取組を充実し、これからの時代に必要な資質・能力を育成する。また、市民ボランティア等の協力を仰ぎ、生徒の学校生活の充実を図る。 3 体験活動への主体的な取組を推進するとともに、保護者や地域を巻き込んだ取組を取り入れ、より多くの考えや意見に触れることを通して視野を広げさせ、他と共に学ぶことのよさを体感させる。
<b>目指す学校像(ビジョン)</b>	【目指す学校像】 生徒、教職員共に互いを認め合い、安心・安全に生活できる学校 【目指す児童・生徒像】 思いやりのある生徒、自主性のある生徒、協力する生徒 【目指す教師像】 確かな学力を身に付けさせる教師、生徒から目標とされる教師、自己研鑽に励む教師		

## 前年度までの学校経営上の成果と課題

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策
		取組指標	成果指標	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策
確かな学力の向上	・家庭学習定着のための取組実施。(各コンテスト・検定試験・ライブの活用) ・長期休業中、放課後、定期考査前の補習学習の実施。	2	3	家庭学習定着のための取組について教員は不十分であると回答している。より効果的な方法について検討し、実施する。補習学習については、定期考査前や長期休業中に実施できた。課題の量や難易度については生徒の様子から判断し、今後も継続していく。	家庭学習定着のための取組について、保護者への要請も含めより効果的な方法について検討し、実施する。補習学習については、定期考査前や長期休業中に実施できているので、課題の量や難易度について、生徒の様子から判断し、今後も継続していく。
	・教科の特性に応じたICT機器の効果的な活用。	3	3	ICT機器の活用など、各教科で工夫して分かる授業を実践した。GIGA端末の導入に伴い、さらに生徒にとって、わかりやすい授業を行うため、教員のスキル向上を図り、併せて生徒の活用スキルの向上を目指す。	ICT機器のさらなる活用を進める。GIGA端末の導入に伴い、さらに生徒にとって、わかりやすい授業を行うため、教員のスキル向上を図り、併せて生徒の活用スキルの向上を目指す。
豊かな心の育成	・「考え、議論する道徳」の実施。 ・各教科の中で人権に関わる内容を意識的に取り上げ、自他を尊重する意識を向上させる。	3	4	昨年度の人権尊重教育研究校としての成果を各教科の中で、意識的に取り上げ、自他を尊重する意識の向上が図れた。次年度も継続し、さらに意識の向上を図っていく。	昨年度の人権尊重教育研究校としての成果を各教科の中で、意識的に取り上げ、自他を尊重する意識の向上を図っていく。次年度も継続するとともに、生徒がより深く考え、意識の向上を図る取組を行う。
	・いじめ撲滅運動 ・地域清掃、落ち葉掃き、雪かき活動 ・職業調べ	3	4	生徒会が中心となり、地域清掃や落ち葉掃きを活発に取り組めた。挨拶運動も効果も上げている。いじめ問題も人権尊重教育での活動を実践し、自他を尊重する意識を持たせ、いじめ撲滅に向けた生徒主体の活動を取り入れていく。	生徒会が中心となり、地域清掃や落ち葉掃きを活発に取り組めている。挨拶運動も効果を上げている。いじめ問題も人権尊重教育での活動を実践し、自他を尊重する意識を持たせ、いじめ撲滅に向けた生徒主体の活動を取り入れていく。地域に向けた情報発信も行う。
健やかな体の育成	・保健体育の授業での30分間水泳、12分間持久走。 ・準備運動の工夫による体力向上。	2	2	体育の苦手な生徒もそれぞれが目標を定め、授業に取り組んだ。コロナ禍の影響で、全体的に記録は伸びなかったが、体力の向上にはつながったと考えられる。取り組んだ結果について目に見える形で示し、成果が実感できた。	水泳の見学が多い。着衣の工夫はされている。生徒を交え得意・不得意の意見を募り是正できる取組を進める。
	・毎月、保健だよりを発行し、健康について啓発する。 ・委員会活動(昼の放送、食育講話)で食育教育の充実を図る。	4	4	保健だよりを通じて、健康についての啓発を生徒・保護者に向けて行い、意識の向上を図れた。病気の予防や怪我・事故への危険予知も実施した。食育については委員会が中心となって進め、生産者の声を中心に掲示作品を作成した。	保健だよりによる情報発信はよくできている。地域の方は目にしていないので、学校から発信してほしい。
特別支援教育の充実	・特別支援教室利用生徒への一貫した指導・支援を行う。	4	3	取組指標は高いものの、成果指標はやや低くなった。個別の指導計画の作成は関わる教員全てで行う必要があり、時間の調整が課題となる。教職員全体の特別支援教育に対する理解を進める。	生徒の相談相手となる、カウンセラーや養護教諭が働きやすい環境を教員とともにしっかり作っていく。
	・特別支援校内委員会、およびステップルームを活用し、教室復帰を目標とした個別支援を行う。	4	3	今年度も不登校の原因として発達に起因するものが見受けられる。今後も特別支援校内委員会では、SCに積極的につなげたり、ステップルームでの支援方法を考えたりと個別の支援について検討し、実行していく。	生徒の学習意欲を重視して、学びが活発になるように声掛け等の工夫をしてほしい。
本校の特色	・キャリア教育(高校、事業所) ・道徳(命の講話) ・携帯安全教室(企業)	2	2	今年度も成果指標が4にならなかったのは、コロナ禍の影響で地域や家庭が参加する機会が失われたためと考えられる。ICTの活用も不十分であり、次年度は積極的な活動を計画する。	コロナ禍の影響はあるが教育委員会が作成した動画等があるようなので参考にしてください。
	・専門家による剣道の指導(授業) ・外部指導員による技術向上(部活動)	2	4	部活動指導員、課外部活動指導員をそれぞれ任用している。今年度は活動の成果を周知したため成果指標は4となった。反面、任用できる部活動に差があり取組指標は低かった。他の部活動へも広げていく。	部活動に差ができるのも指導員の関係で難しい。施策やアイデアを地域住民に求めてみてはどうか。

